



の み が わ

2022年04月27日発行（通算第106号）

連絡先 〒145-0061 大田区石川町1-26-8

発行 呑川の会 代表 高橋 光夫

呑川の会 e-mail: mitsuo.takahashi@nifty.com

呑川の会 HP <http://nomigawanokai.net/>

高橋会員HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



— 都市河川・呑川読本 — 発刊！！

（記：松本 秀雄）

「わたしたちの都市河川 呑川」活動状況

お知らせ！

“呑川の紹介ガイド本が 「2022年3月末 発刊」！”

呑川読本「わたしたちの都市河川 呑川」が発刊されました。

A4判、カラー、240ページ

・活動状況（ガイド本の配布 及び 理解を深める活動状況）



大田区：全ての小学・中学・高校及び全図書館、郷土博物館
関係大学、大田区本庁河川管理者等関係部署
各特別出張所、文化センター、議会会派、地域情報誌
「全児童館、呑川沿いの幼稚園及び町会、お寺」

目黒区：呑川沿いの小・中・高校及び全図書館、関係大学

世田谷区：呑川沿いの小・中・高校及び全図書館、郷土博物館
区誌研究会

品川区：全図書館、歴史資料館

東京都：全図書館 及び 国立図書館

呑川水質対策研究会：大田区、目黒区、世田谷区、都の関係部署

友好団体：六郷用水、洗足風致協会、呑川ネットワーク協議会
関係各専門家、「町めぐり、生涯学習、その他」

呑川の会：会員及び活動協力者、「呑川講座参加者（予定）」

郵 送：「不特定多数の方たちへ」呑川の会へ直接希望注文者

* 配布状況：半数以上の配布が完了し、現在第二段の配布作業中です。（「」内（予定含む））

第7回 呑川 鯉のぼり 大会

(記：白石 琇朗)

大田区を中心 池上に春の名物として評判

池上本門寺参道・霊山橋～妙見橋間

* 展示期間 5月2日(月)18時～6日(金)10時

鯉のぼり 300匹余：真鯉・緋鯉・子鯉・吹流し 50匹



* 池上・池上第二小学校2年生手作り鯉のぼり

2017～20年度2年生200匹、22年度2年生60匹展示

* 主催：呑川の会 * 協力：池上青少対・池上特別出張所



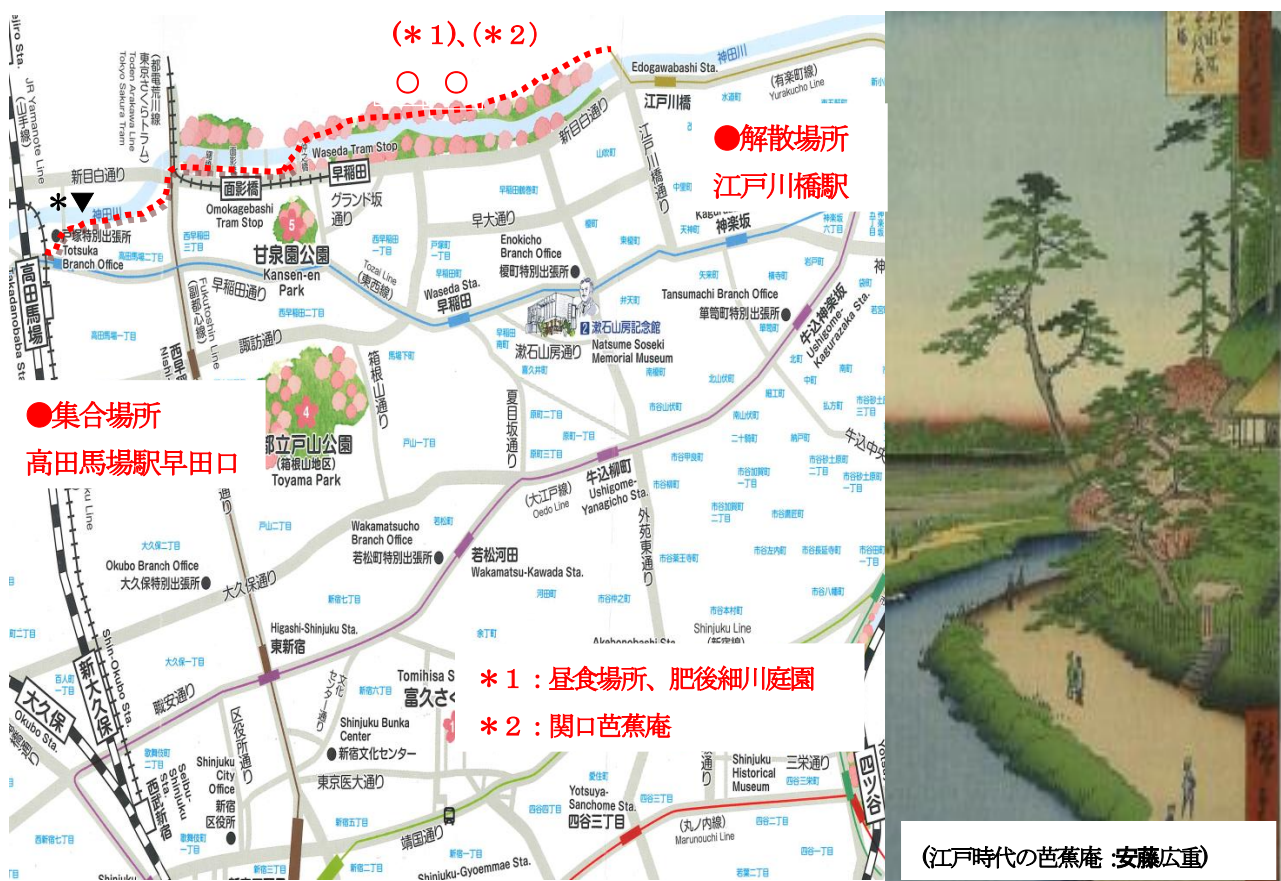
3年ぶりにゴールデンウィーク開催「呑川鯉のぼり大会」は7回目となり、今までで一番賑やかな300匹あまりの鯉が呑川を泳ぎます。両端には、250匹の小学2年生の可愛らしい手作り鯉のぼり、真ん中には、大きな布製鯉のぼり（真鯉・緋鯉・子鯉・吹き流し）を飾りつけ、霊山橋～妙見橋間が鯉のぼりで一杯となり、見応えがあります。

1. 実施準備：
 - ①4月21日(木)より武蔵新田クリラボで小学生手作り鯉のぼりの修繕作業
 - ②4月28日(木)池上特別出張所にて新手作り鯉のぼり準備作業
 - ③5月2日(月)9時半より、同上にて、鯉のぼりをロープ取り付け作業
 - ④ 〃 17時頃から1時間、妙見橋にて、鯉のぼり吊り下げ作業
2. 開催展示：
 - ①5月2日(月)18時～6日(金)10時
 - ②5月6日(金)10時～ 妙見橋にて、撤収片付け作業

— 春の都市河川ウォーキング — 3/27日実施

(神田川中流お花見コース (高田馬場 ~ 肥後細川庭園 ~ 江戸川橋))

記: 松本 秀雄)



「出典:新宿さくらMAP (新宿区発行)」

「出典:文京ふるさと歴史館蔵(文京区発行)」

3月27日(日)「まん延防止等重点措置」解除後最初の日曜日、桜もちょうど満開でお花見に絶好なウォーキング日和でした、今回は、新宿区—豊島区—文京区3区の境を流れている神田川沿いの名所・旧跡を巡る高田馬場から江戸川橋までの約5 kmのコース。高田馬場駅前白石副代表による本日のスケジュールとコース説明を受けた後、(10時20分)総数23名元気にスタートしました。

まず、駅前の坂道を下り戸塚特別出張所の地域センター内に開設されている「神田川ふれあいコーナー(*▼)」で、神田川の生き物や将来の神田川イメージなど、興味ある展示物を見学しました。

「神田川」といって、雨や排水を海に流すための「大きな排水路」という、ドブ川っぽい印象。しかし、「河川整備や水質改善などの取り組みを続け、平成4年にはアユの遡上も確認されるほど水がきれいな川になった。アユが見つかったことで新宿区では、神田川のイメージや川への取り組みも変えていかないといけないと考えるようになった」との事。そこで区では、同センター隣の橋から降りて川の中で遊べる場所「親水テラス」を開放し、普段は入ることができない神田川をより身近に体感・体験してもらう取り組みも行っています。同施設は川の深さは約20cm程度で、長靴か汚れてもよい靴を持参(はだしやビーチサンダルは不可);新宿区みどり公園課広報」との事です。呑川でも、池上特別出張所付近にこのような展示コーナーや親水テラスが出来ないものでしょうか。

「神田川ふれあいコーナー」を出て、神高橋から高田橋間の（川面を眺めることができるよう親水階段がつくられている）親水施設を通り、しばらく進んでいくと、左手に都電荒川線が見えてきた。

都電荒川線を横切り左折し見事な桜並木路を歩くと、高戸橋下流に移動用魚道が見られました。高戸橋上流側の高田橋付近まで、アユの遡上が確認されたのも、この魚道の設置のおかげですね。（平成9年の魚道設置前は、水の流れを弱めるため川幅全体に落差1m x 3段の段差があった、との事）



「高戸橋下流の魚道」

「肥後細川庭園～関口芭蕉庵～大滝橋～江戸川公園～」

次に、徳川御三卿（清水、田安、一ツ橋）のひとつ初代清水家の江戸下屋敷が置かれていた甘泉園を散策・トイレ休憩、公園を出た所のセブンイレブンで昼食を用意し、肥後細川庭園に向かった。この庭園も幕末には肥後熊本藩主の下屋敷、戦後文京区へ移管、H29年より現名称となったところ。この庭園内で、各々ベンチに座り、ゆっくりと昼食休憩(12:10～13:10)をとりました。

* 1 : 昼食場所、肥後細川庭園



「昼食場所：肥後細川庭園(展望所2F 方撮影)」

「出典：江戸時代の切り絵図(文京ふるさと歴史館蔵)」

昼食後、庭園内を散策したり回遊式展望所(2F)に昇り絶景庭園をみたりし、正門広場にて全員で記念写真を撮り、再び中門から入り庭園内を通過して、南門から出て「関口芭蕉庵」に向いました。

関口芭蕉庵は、江戸時代に安藤広重が「江戸名所百景」の中で「関口上水芭蕉庵椿山」を描いており、現在も椿山荘のすぐ西側に位置し、日本庭園一体の緑に囲まれた静かな場所にありました。

俳人として有名な松尾芭蕉は、郷里の伊賀から江戸に出て、延宝5年(1677:34才)から同8年までの4年間に亘りここに居住して、神田上水の改修工事にたずさわった、とも言われています。

神田川は井の頭池を水源とし、隅田川に注ぐ全長25.5キロの河川ですが、神田上水は、天正年間

(1573~92年)、徳川家康の命で大久保忠行が開設した上水で、井頭の池を水源とし、関口で大洗堰を造り水位をあげてその勢いで神田・日本橋地区に給水、総延長約66キロもありました。

井の頭池から今は江戸川公園になっている文京区関口の大洗堰までを「神田上水」、関口から飯田橋までを「江戸川」、飯田橋から隅田川までを「外堀」と呼んでいたが1965年の河川法改正以来「神田川」と呼ばれるようになった、との事。因みに、神田上水は明治34年まで使われていた。

芭蕉庵を出て、「椿山荘」庭園前川沿いの桜をしばし眺めながら、江戸川公園に向かいました。



「江戸川公園にて(一時休憩)」



「江戸川橋にて解散(白石副代表あいさつ)」

2時の解散まであっという間に時間が過ぎ、有意義なウォーキングの1日を無事終了しました。



「昼食後記念撮影(肥後細川庭園 正門広場にて 参加者23名)」

— 洗足池小学校の呑川探検 —

令和4年1月21日 実施

(記:橋本 文興)

呑川探検はコロナ禍で実施が危ぶまれましたが、晴天のもと3年生68名が6班に分かれて、先生方とサポートメンバー14名の付き添いのもと無事行われました。

当日は、コロナ禍ということもあり密をさけ体育館ではなく各教室へのリモート映像で、9時半から呑川の生き物、水質、洪水など今回の呑川探検コースを含め事前説明をしました(高橋代表)。

説明を開始した冒頭部分、呑川に新ゴジラが現れた場面では、子供達が身を乗り出してスライド映像にくぎ付けとなり、呑川についての関心を一機に高めたような気がしました。

事前学習の後は、川の流れの測定や呑川沿いの生物探索など、12時までに戻る校外学習です。

6つの班に分かれ、呑川の会のメンバー13名がガイドをしました。担任の先生、サポーターの方、特に側道での車両通過時の交通安全管理に細心の注意を払い、一緒に歩いていただきました。

注意事項を確認し、10時過ぎ小学校裏門から第1班がスタートしました。出穂山地蔵や街道碑を見て東工大裏門へ入り、しばらく進むと東工大構内の樹木の間からは富士山の絶景が眺められ(写真)、ここが高台(武蔵野台地の高台部分)であることを説明しました。



各教室での事前学習 (映像:工大橋)



東工大校内からの富士山(安岡会員撮影)

石川神社脇の階段を下りしばらく歩き境橋へ、ここで三面コンクリート造りの呑川について説明。上流に辿るとオナガガモ、コガモやカルガモなどが現れて子供達が歓喜。更に上流の工大橋の広場へと進み、ここで、説明看板をもとに呑川の源流や新宿落合水再生センターからの送水ルートなどの説明をしました。次に、実際に「黒膜で被われた流水の出口」を確認したあと、地下道を潜り、更に上流側の呑川緑道(現在は暗渠部分となっている)を見学・確認し、再び地下道をUターン。次の川の流れを測る島畑橋に向かいました。流速測定手順は各役割が事前に決められていました。島畑橋上から川面中央部に、流速測定用の木片チップをグループごと声かけし落とす⇒チップを追いかける⇒石川公園手前の一本橋上で計測係りが計測する。因みに、第4班の計測時間は、4分6秒(246秒)でした。「参考:橋と橋の間は約200mあり、流速は $200\text{m}/246\text{秒} \times 60 = 48.8\text{m}/\text{分}$ 」

石川公園で小休止して下流に向かいました。途中、ユスリカの捕虫器や両岸の桜並木を説明。



柳橋～石川橋の間の緑地では、清流復活の碑、石橋供養塔、呑川幹線排水取り入れ口を説明しました。子供達からは多くの質問があり、呑川に関心を持たれた気がしました。12 時前全員無事帰校。



今回の呑川探検は、新型コロナの感染状況を確認しながらの大変な期間の中、進められた先生方をはじめ関係者に感謝します。

<h2 style="margin: 0;">平成 4 年度の会費納入のお願い</h2>
--

「呑川の会・年会費、2,000 円納入のお願い」

お忙しい中恐縮ですが、定例会・総会ですでに支払われている方を除き、令和 4 年度・年会費 2,000 円 をお支払い下さるようお願いいたします。

- * 郵便振替の場合 : 口座番号 00170-8-55114 呑川の会
- * 銀行振り込みの場合 : ゆうちょ銀行 019店 ゼロイチキュウテン
 口座番号 当座 0055114
 受け取り人 呑川の会

「呑川の会」当面の活動日程

(記：高橋 光夫)

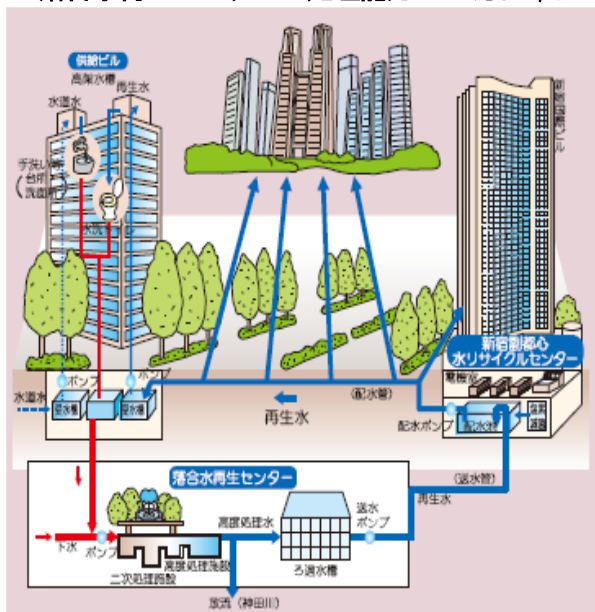
*「新型コロナウイルス」の影響で変更することがあります。ご注意ください。

<p>「呑川 鯉のぼり大会」 2022年5月2日(月) 18:00 ～5月6日(金) 10:00 池上本門寺参道・霊山橋～妙見橋</p> <hr/> <p>*小学2年生の子どもたちが作った手作り鯉のぼりはじめ、300匹余りが並びます。</p>	<p>「呑川の会・総会」 2022年5月19日(木) 13:30～16:30 「ふれあいはすぬま」第5会議室</p> <hr/> <p>*「世話人会」は同日 10:00～12:00 同じく「ふれあいはすぬま」で開催</p>
<p>「呑川ネット・総会」 2022年5月26日(木) 10:00～ 生活センター「グループ活動室」</p> <hr/>	<p>「洗足池」ホテル見学 2022年7月末 夕方以降</p> <hr/> <p>*大森六中の生徒たちが6月に放流したホテルが光り始めます。自由に飛び回るので洗足池のどこかは未定です。(幹事・埼)</p>

*上記の他に小学校の「呑川探検」の可能性がありますが(日時未定)。ご協力ください。

(編集後記) (記：松本 秀雄)

落合水再生センター：処理能力：45万ト / 日



*高度処理水放流 ⇒ 神田川へ(1964年S39)

SDGsは、私たちみんなが、ひとつしかないこの地球で暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するため私たちが進むべき道を示した目標です。

左図は、神田川ウォーキング出発点上流にある新宿区上落合にある下水の水再生センターです。一日の処理能力は45万トンで、高田馬場分水路から神田川へ再生水を放流しています。1995年には清流復活事業として、呑川へも一日当たり約3.6万トン供給されています。神田川では、平成4年にはアユの遡上も確認されるほどきれいな川になったとの事。呑川でも、この清流水を汚さないよう家庭からの含油雑排水削減やごみ不法投棄防止などに取組みアユの遡上がみたいものです。